

【座右の銘】  
煮詰まった時は  
旅に出よう

みかみ ただふみ  
三上 忠文さん

リアス唐桑ユースホステル オーナー

昭和26年、宮城県気仙沼市唐桑町生まれ。  
リアス唐桑ユースホステルオーナー(ペアレント)として国内外の旅行者を迎える一方、  
気仙沼市観光協会唐桑支部長として地元唐桑の観光振興に携わっている。  
趣味は薔薇とお酒。

母がここでユースホステルを開業したのは昭和51年のことでした。当時私は横浜で働いていましたが、数年後帰郷し、ここを継ぎました。『旅をしたいと思っている若者』を応援しているユースホステルですから、当時は大荷物を背負ったバックパッカーや貧乏旅行をする若者など、『旅人』が沢山訪れたものです。私の代になってから40年以上が経過し、その間、大型バスで景勝地を訪れる観光などで地域が賑わう様子や旅行者が少なくなった時期などを経験してきました。みちのく潮風トレイルが誕生してから、ハイカーが立寄ってくれるようになり、みなさんと接する中で、忘れかけていた開業当時の『旅人』を懐かしく追憶することがあります。『旅人』は、目的がいわゆる観光と違い、自分発見であったり誰も行ったことがないような場所を探したりと、地域を見る目線が違います。みちのく潮風トレイルのハイカーはそういう『旅人』に近いと感じます。旅っていいですね。

ほぼ1人で歩く旅。ありのままの自然を感じながら自分の力で進む歩く旅には、予想だにしない出会いが生まれるものですよね。その出会いこそ歩く旅の醍醐味であり収穫です。対して、ハイカーからの声かけが、シャイで自分の地域に自信を持ってない唐桑のじいちゃんばあちゃんの心に誇りを芽吹かせています。

みちのく潮風トレイルが唐桑を通して良かった。これからも『旅人』を応援し続けます。



リアス唐桑ユースホステルはトレイル上にある半造レストハウス「おおがまテーブル」でもお客様を迎えています。また、三上さんと一緒に迎えてくれるスタッフの風川さんは、震災ボランティアをきっかけにそのまま関西から唐桑に移住した方。唐桑の人と風土が大好きだそうです。

